

一般社団法人 公認心理師の会®

2020年 年次総会

科学者—実践家モデルに基づく 公認心理師の新しい時代を拓く

日時 2020年5月30日(土)10:30～

場所 東京大学駒場キャンパス 21KOMCEE EAST

研修会が翌31日(日)に
開催されます。こちらにも
ぜひご参加ください

会員が一堂に会し、顔を合わせ、学び、
考え、親睦を深める会を開きます

【全体企画】シンポジウム・パネルディスカッション
「現場で活躍できる公認心理師になるにはどうするか」
厚生労働省公認心理師制度推進室より話題提供

【医療分野】パネルディスカッション
医療現場で求められる多職種連携・チーム医療
—公認心理師はどう他職種と働くのか—

【教育分野】シンポジウム
行動コンサルテーションによる教育分野への支援

【司法分野】シンポジウム
矯正・保護・地域における心理的支援の連携のあり方：
性犯罪者に対する公的支援と民間支援

【福祉分野】シンポジウム
心理学とノーマライゼーションの関係におけるパラ
ダイム・シフトは可能か：分担から連携、そして共創へ

【産業分野】シンポジウム
職場復帰支援—治療と仕事の両立に必要な支援とは—

【倫理職責】講演
科学者—実践家モデルは「絵に描いたモチ」ではない
—「食える」心理職となるために

年次総会・研修会ともに事前予約が必要です ホームページより申し込み
【年次総会 参加費】 会員4,000円 非会員6,000円 学生3000円
どなたでも参加いただけます 公認心理師以外の方も歓迎します

参加登録
お問い合わせ

一般社団法人 公認心理師の会 事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷5-23-13 田村ビル
公益社団法人日本心理学会事務局内
ホームページ <https://cpp-network.com/index.html>



●全体企画 シンポジウム 「現場で活躍できる公認心理師になるにはどうするか」

話題提供 厚生労働省 公認心理師制度推進室

公認心理師は高い能力を持っており、こうした能力を十分に発揮して、現場で活躍できる公認心理師になるには、どのようにしたらよいだろうか。心理アセスメントや心理学的介入のスキルを深めることはもちろんのこと、国家資格としての公認心理師には法律・制度にもとづく多職種連携（チーム医療、チーム学校）、多職種間のコーディネート業務、サイエンスにもとづく心の健康教育など、幅広い仕事が期待されている。これから国家資格としての能力を高めていくために、どのようなことが必要か考えてみたい。

●医療部会 パネルディスカッション

「医療現場で求められる多職種連携・チーム医療－公認心理師はどう他職種と働くのか－」

公認心理師には、多職種と連携した業務遂行、専門性の発揮が強く求められている。医療では、従来からチーム医療、つまり多様な専門職による連携・協働による、より良い医療の実践が推進されてきた。ここでは、医療のさまざまな領域において、先進的に活動を行っている方たちをお招きし、心理師としてどのようにチーム医療に参加し、貢献してきたか、その工夫を伺い、これからのチーム医療への展望を共有する機会としたい。

●司法・犯罪・嗜癖部会 シンポジウム

「矯正・保護・地域における心理的支援の連携のあり方：性犯罪者に対する公的支援と民間支援」

公認心理師法第42条は、公認心理師に対して他職種との連携を義務付けている。しかし、司法・犯罪・嗜癖領域においては、公的支援における縦割り、公的支援と民間支援の間の情報共有の難しさ、更には地域における受け皿不足など、連携上の課題が少なくない。そこで、本シンポジウムにおいては、性犯罪者に対する心理的支援を例にとり、各機関の支援の実態を報告し、現行の枠組みの中で公認心理師として連携する方策について検討することを目的とする。

●倫理職責部会 講演

「科学者－実践家モデルは「絵に描いたモチ」ではない－「食える」心理職となるために」

科学者－実践家モデルは、公認心理師の会の中核的な理念である。そこで、本発表は、科学者－実践家モデルを再確認し、今後の方向性を共有することを目的とする。その内容としては、①科学者－実践家モデルとは何か、②そのモデルと公認心理師の関係性、③科学者としてのミニマム・エッセンスとは何か、④実践者としてのミニマム・エッセンスとは何か、⑤その活動の具体例はどのようなものか、というものを予定している。

●教育・特別支援部会 シンポジウム

「行動コンサルテーションによる教育分野への支援」

コンサルテーションは、教育分野で活動する公認心理師に求められる主たる業務の1つである。その際に、客観的に観察可能で、共有することが比較的容易な「行動」に着目したコンサルテーションを展開することは、「科学者－実践家モデル」の求める、根拠に基づいた支援において極めて有用な手段である。本シンポジウムでは、行動コンサルテーションの理論と実践について整理を行い、行動コンサルテーションの重視する観点について共有することをねらいとする。

●福祉部会 シンポジウム

「心理学とノーマライゼーションの関係におけるパラダイム・シフトは可能か： 分担から連携、そして共創へ」

従来、「科学は人間性を疎外する」というステレオタイプによって、「(科学的な)心理学」と「ノーマライゼーション(インクルージョン)」との関係はトレード・オフ(trade-off)なものとなることが多かった。そこで、本シンポジウムの目的は、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉の現場で活躍する「科学者－実践家」にご登壇いただき、心理学とノーマライゼーションとの良好な「橋渡し」の実例を明示することとする。

●産業・労働・地域保健部会シンポジウム 「職場復帰支援－治療と仕事の両立に必要な支援とは」

産業領域における心理職の職場復帰支援は、うつ病をはじめとするメンタル疾患を持つ就労者支援を中心に行われてきたが、少子高齢化に伴う労働人口の減少などを背景に、様々な疾患の治療と仕事の両立をしている就労者の支援など、求められる対応範囲が広がっている。本シンポジウムでは、心理職・企業・産業保健/医療の立場から、産業領域で、“今”、公認心理師に求められることについて話題提供いただき理解を深めていきたい。